

# 日本教育岩手

〒020-0024 盛岡市菜園1-11-15

日本教育会岩手県支部 TEL 019-623-8100

代表 八重樫 勝



## 学習の四本柱

紫波町教育委員会教育長 侘美 淳

現職に在って、国の教育改革、岩手県の教育施策等を総括的に把握し、併せて本町教育の現状や課題に向き合う日々が続いています。

課題は、生きる力、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び、協働的な学び、GIGAスクール構想、学校における働き方改革、令和の日本型学校教育、ソサエティ5・0、感染症や災害等を乗り越えての学びの保障など、枚挙にいとまがありません。また、これらは個別の概念ではなく、全てが何かしらのネットワークでつながっているのです。町教委の責任者としては、教育の目的や手段、時代の趨勢等の観点から、多くの課題を「俯瞰する・洞察する・その時点での納得解を判断する」とを大切にして業務に当たっています。学校教育における「思考・判断・表現」を自身も体現している毎日です。

近年、本町では様々な教育課題

解決のため学校再編や小中一貫教育導入などに取り組んでいます。施策を推進するに当たり不安になることもありましたが、結果的にそれらを乗り越えられたのは、あ

る提唱との出会いと確信しています。平成十一年に岩手県教委において、第八次岩手県教育振興基本計画が策定されています。教育振興の基本目標は「一人一人が学びの世界を拓く、心豊かでたくましい人づくり」でした。その説明に次のような文があります。

「**「知ることを学び、為すことを学び、他者と共に生きること**を学び、人間として生きること**を学ぶ」という四つの『学びを』大切にしながら…(以下略)**」

この文章の出版は、二十世紀最終盤の平成九年(1997)に「ユネスコ二十一世紀教育国際委員会」から提唱された『学習・秘められた宝』の中の「四つの学び」です。

私が県教委指導課に在職してい

た時、文科省より出向されていた杉浦久弘課長(現文化庁次長)から、発刊されたばかりの書籍について、指定箇所の要約作成の指示がありました。まさに前掲の「学習の四本柱」の箇所でありました。その後、この提唱が県教育振興基本計画の核心部分となり、杉浦課長の先見性に目を見張ったことを覚えていきます。

### 【学習の四本柱】

- ① 理解の手段を獲得するため「知ることを学ぶ」
- ② 自らの置かれた環境の中で創造的に行動するため「為すことを学ぶ」
- ③ 社会の全ての営みに参画し協力するため「共に生きること学ぶ」
- ④ 先の三つから必然的に導き出される過程として「人間として生きることを学ぶ」

この提唱内容は、国連・ユネスコにおいて多くの英知を結集して編纂した二十一世紀前半における普遍的教育の在り方であります。

今後とも、私は「四つの学び」を心の一番奥底に据え、自身の「思考・判断・表現」にブレが生じないよう教育行政に努めていく所存です。

## いわての防災教育～その3～



### 避難所運営で育てたい「共助の心」

八幡平市立西根第一中学校 校長 高橋 徹

東日本大震災から間もなく12年が経過しようとしている。その間も県内では、地震・土砂災害等が発生しており、一人ひとりが災害

に対する備えについて意識することは極めて大切である。今回は、「いわての防災教育～その3～」として、将来自分が地域の一員として何ができるのかについて、西根一中での取り組みを高橋徹校長先生から紹介していただきました。

#### I 事業の概要

本学区は八幡平市の中央部に位置し、西に岩手山を望む風光明媚な地である。市では本格的に防災教育に取り組んでいる。本校は災害時の避難所に指定されており、地域防災の拠点ともいえる。

そこで本校では防災教育を学校



1年生 DIG実習

運営の重点の一つと位置付け、「郷土の未来を支える人になろう」という全体テーマのもと、1年生は「地域を知る」、2年生は「見聞を広める」、3年生は「未来を考える」というそれぞれの学年テーマを設定し教育活動に取り組んでいる。

#### II 取組の内容

##### 1 1年生「地域を知る」

- ①DIG（災害図上訓練） 実習（地域編）

自分が生活する地域の防災について考える機会として、4～5名でグループを組みDIG実習を行った。豪雨を想定し、予想される被害を考え、そこから身を守るための手段を生徒たちの力で考えた。生徒たちは改めて災害が身近なことであると感じ取るとともに、避難の方法について学ぶことができた。

##### ②校外での防災学習

岩手山噴火に対する防災教育は市全体で取り組んでいる内容である。本校では、地域の自然環境や防災について理解するため、イーハトーブ火山局を訪問し、調べ学習を行うとともに、岩手河川国道事務所の方を講師にお迎えして講



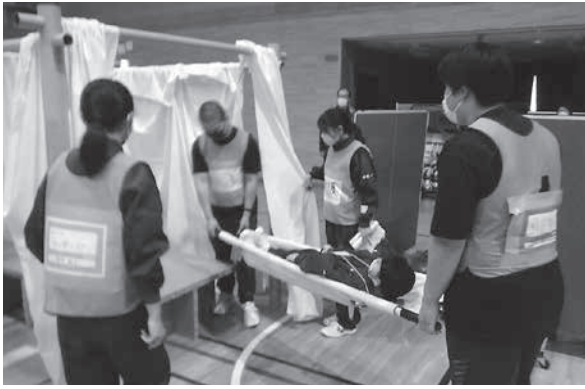
2年生 宿泊研修

話をいただく機会を設定した。話の内容は過去に実際にあった火山噴火の内容であり、何よりも身近な話題だったことから、生徒の興味関心は高く充実した研修となった。また、同日の昼食は避難所での炊き出し訓練として、ビニール袋で米を炊くという非常食作りを行った。

##### ①被災地から学ぶ

一泊二日の日程で、陸前高田市から宮古市田老までの沿岸地域で、東日本大震災について学んだ。陸前高田市では津波伝承館ボランティアの方から東日本大震災の様

#### 2 2年生「見聞を広める」



避難所運営①

子を選び、また震災学習列車では、実際に電車に乗車し、被災場所と被災状況を自分の目で確認することができた。二日目は田老第一中学校2年生の皆さんと交流し、本校生徒は津波について学び、さらに自分たちが昨年度学習した火山噴火防災についての発表を行った。この宿泊研修の期間中研修先で地震が発生した。沿岸での地震に遭遇した生徒と職員には緊張が走った。

②平館高校から学ぶ

平館高校の3年生10名の皆さんが本校の2年生と防災について意

見交流を行った。それぞれの学校で取り組み学んできたことを紹介し合うことで、中学生としては高校生の考え方の深さを感じる事ができた。また、自分の中学卒業後の進路について考えるよい機会となった。

3 3年生「未来を考える」

①HUG（避難所運営ゲーム）研修

「火山性地震が発生。岩手山が噴火。西根一中に避難所を開設する」という想定で避難所運営を机上で行った。どのような家族が避難所に訪れ、その方々に避難所でいかに生活していただくかを検討する取組である。6人ほどのグループで作業を行い、例えば机上であっても避難所運営の難しさを実感した。この実習が数日後の「全校避難所運営実習」につながる。

4 全校での避難所運営実習

1・2年生は避難者役、そして3年生は避難所運営役として実習が行われた。1・2年生は「避難者を演じることで他者理解を図るとともに運営者の対応から共助の在り方について学ぶ」を目的とし、3年生は「自己に関わる問題と主



避難所運営②

体的に向き合い、他人を思いやりながら共助の精神のもと、協力して解決に向かう態度を養う」を目的としている。運営役の3年生は

本部受付班、案内誘導班、救護衛生班、物資管理班の4班に分かれ組織的な運営が行われるよう工夫した。1・2年生は高齢者、けがをしている人、幼児等いろいろな状況に置かれている避難者の役割を演じた。またこの実習は参観日として保護者にも公開していることから今年度は保護者にも避難者役として参加していただいた。

実習終了後は、保護者も一緒に

全校で「振り返り」を行った。避難者の立場としてやってほしかったこと、運営する上で苦労したことなどが話し合われ、生徒たちは改めて避難所運営の難しさを感じた。

この実習は避難所の運営方法に身に着けることが第一の目的ではない。今回避難者役の1・2年生も一年後・二年後には運営者役として実習を行う。後輩は先輩から学び、中学校3年間で避難者と運営者を体験し、相手を思いやる気持ち、そして自分の力で課題を解決する力を身につけさせたいと考えている。

III まとめ

災害発生直後は、自分の命を自分で守ることが大切である。しかし避難が始まったときからは「共助」の気持ち・行動が人の命を守ることになる。地域の方の中学生に対する期待は大きい。生徒たちには、地域の期待に応え地域を支えていく立場になってほしいものである。そのことが生徒一人ひとりの「自己肯定感」の育成につながると考える。



## 飛躍の秘密を探る その2 北上市立黒沢尻北小学校

# NHK全国学校音楽コンクールで初の金賞 「個々の力を伸ばす練習」で日本一の歌声 全日本合唱コンクール3年連続金賞

今回の「飛躍の秘密を探る」は、令和4年度第89回NHK全国学校音楽コンクール（10月9日）と第75回全日本合唱コンクール（11月13日）で、金賞と最高賞を受賞した黒沢尻北小学校を訪れ、千田剛校長先生、顧問の中野美由紀先生、部長の山中利央さんから、美しく豊かな合唱が生み出されるその秘密を探って来ました。（訪問日：10月21日 聞き手・高橋ひさ子副支部長）

### ▼「歌が好き、音楽が好き」が原点

◇高橋 この度は89年目にして岩手県初となるNHK全国学校音楽コンクール金賞並びに内閣総理大臣賞受賞おめでとうございます。また、全日本合唱コンクールではこれ迄2大会連続の受賞で3回目

の大会が目前です。はじめに小学校における特設部の考え方や合唱部の歴史をお聞かせください。

●校長 今回の受賞は、校史に残る大きな足跡となりました。日頃の練習の積み重ねと多くの方々のご支援の賜物です。本校には通年の特設部として合唱部と吹奏楽部があり、吹奏楽部も全国大会に出場して頑張っています。特設部に所属している子どもたちには、特



北上市立黒沢尻北小学校の校舎

別な意識をもたせないように、日々の学習や友達との関係、児童会や係活動など日常の生活の上で成り立っていることを日頃から話しています。特設合唱部は1991年に創設され、中野先生は、2008年に赴任されています。

◇高橋 中野先生は長年児童合唱に関わっておられますが、続けられるエネルギーは何でしょうか。

●中野 「歌が好き、音楽が好き」が原点です。若い頃にたくさん講習会に参加しました。すぐに試したい性格で、学校に戻っては、授業で実践していました。自分が学んだことが、子どもたちの意欲や力とつながることが嬉しいし、何より目の前に子どもたちがいることがエネルギーです。

◇高橋 どのような思いで、コンクールに出場されていますか。

●中野 コンクールは確かに活動の中心ではありますが、部活動の目的ではありません。コンクール



千田校長先生、中野顧問へインタビュー

に向かって努力し、合唱を創り上げ、仲間と響き合わせる心地よさや、ステージで表現する感動を体験させたいのです。ある時期から東北の代表として出場するならば、全国1位を目指さなければと考え始めるようになりました。

### ▼楽曲のイメージをイラストや身体で表現

◇高橋 その思いが実り、東北に明るいニュースを届けてくれました。今年度の合唱部の活動についてお聞かせください。

●中野 今年度の部員数は63名（男子13名、女子50名）で、担当者5名体制となっています。部



全体練習の風景

員数は多いのですが、希望する子  
は誰でも入部できます。  
◇高橋 4年生から6年生の時期  
は、体格や歌声などの変化が見ら  
れ、難しい面もあると思います。  
●中野 普段の練習は全体練習が  
基本です。小学生だけでグループ  
練習をするのは難しいと思います。  
発達段階を考慮しながら出来るだ  
け教師が見ること、全体やパート  
練習の時に、1人ずつ歌わせ「個々  
の力を伸ばす練習」を積み重ねて  
います。この練習を経て、声のイ  
メージや音程、表情、テンポ感な  
どを育んでいます。お互いの声を  
聴くことによって、自分の成長を  
感じ、また、友達の成長にも気づ

くことが出来ます。

◇高橋 他の練習で大事にしてい  
ることがありましたら。

●中野 歌うだけでなく、楽曲の  
イメージをイラストや身体で表現  
し、子どもたちが楽曲に対する思  
いを共有することも大事にしてい  
ます。また、4・5年生は6年生  
と一緒に練習することで、力を伸  
ばしていくことが出来ます。

◇高橋 コロナ禍ではどのような  
練習をしているのでしょうか。

●中野 コロナ感染の状況を見な  
がら、練習時間の確保、練習場所  
の広さ、換気、人数制限、マスク  
をしながらの練習、子どもたちの体調  
把握などに留意しています。子ど  
もたちはマスクがあっても楽しそ  
うに歌っています。

◇高橋 全国大会の経費面は？

●校長 大会参加については、参  
加児童のご家庭から協力をいただ  
かなければいけないのですが、北  
上市から児童分の宿泊費や交通費  
の補助をいただいています。

来月の全日本合唱コンクール  
は、実行委員会を立ち上げ、市内  
の事業所、地域の皆様方等から協  
賛金の協力をいただいています。  
このように多くの方々のご支援を  
いただいています。感謝の気持ち  
をいっっぱいです。



第75回全日本合唱コンクール（フェニーチェ堺）

●中野 合唱部のテーマである「努  
力・信頼・感謝」の実現として、  
いろいろな機会に演奏をさせて頂  
いております。

▼合唱部の経験が子どもたちの力に

◇高橋 山中部長さん、NHK全  
国大会の感想と間近な全日本の全  
国大会に向けての気持ちは？

●山中 NHKホールの隅々まで  
歌声が届いている感じがして歌っ  
ていてとても嬉しかったです。全  
日本でも私たちが支えてくださる  
多くの皆さんに曲の楽しさや、感  
謝の気持ちが届くようにステージ  
に立ちます。心一つに声を揃え、

練習してきたことを出し切りたい  
と思います。

◇高橋 最後に、中野先生の願い  
を教えてください。

●中野 合唱部での経験が、子ど  
もたちの力となる事を願っていま  
す。一生懸命になることに出会い、  
充実した日々を過ごしてほしいと  
思います。ふとした時に、歌を口  
ずさむことがあれば嬉しいです  
ね。指導者としてやりたいことが  
ぶれないこと。北上の合唱をもつ  
と盛んにしたいと思っています。

▼インタビューを終えて

インタビュー後、放課後の体育  
館での練習を拝見させて頂きま  
した。マスク越しでもわかる豊か  
な表情、美しく響く歌声、明瞭な  
言葉、圧倒的な音量等々から、個  
に応じた指導を地道に積み重ね、  
子どもたちが互いに聴き合うこ  
とで、合唱に向かう構えと耳が  
育っていること、そして何より「合  
唱が好き」という思いが「飛躍の  
秘密」につながっていると感しま  
した。  
1月5日、北上市民に大きな喜  
びと感動を与えた活躍が認めら  
れ、2度目となる「北上市民栄誉  
賞」を受賞しました。



# 地区会だより



## 北上・和賀地区会

11月26日(土) ホテルシテイプラザ北上において、3年ぶりとなる令和4年度北上・和賀地区会研修会を開催いたしました。当日は、ご来賓をはじめ終身会員や小・中・高の会員等96名の出席がありました。講演の前に幹事会の報告を行いました。その後、元大槌町教育委員会教育長の伊藤正治氏より「共に創る未来へつながらる学び〜東日本大震災津波からの教育の復興〜」という演題でご講演をいただきました。講演では、当時の大槌町や学校教育等の被害状況、避難所での生活の様子や支援の状況等について説明がありました。また、その後の学校再開や震災後わずか4年で小中一貫校創設に至る経過についてお聞きすることができました。大槌町が目指す小中一貫教育、その背景や必然性、理念は、本県



講演する伊藤正治氏

がこれまで進めてきた復興教育の理念そのものであることがわかりました。数々の困難を乗り越えながら地域とともに歩んできた学校づくり、「9年間を貫く3つの大槌型学びのスタイル」や「ふるさと科」の取組など、今私たちが抱える教育課題にいかに向き合っていました。また、震災の風化が懸念される今、震災を経験した私たちが、震災の教訓を後世に語り継い

でいくことの必要性を改めて確認することができ、とても有意義な研修会になりました。

(事務局長 八重樫 浩二)

## 下北地区会

12月2日(金)、下北地区会では、龍泉洞温泉ホテルにおいて講演会を開催いたしました。本会では例年、5月に総会、秋以降に講演会を開催しておりますが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、総会のみで開催となっておりました。懇親会の実施は叶いませんでしたが、3年ぶりの講演会開催となります。今回は「ストレスチェック制度の概要と管理職のメンタルヘルスマネジメント」と題して、キャリアコンサルタントファシリテーター高橋昭三氏にご講演をいただきました。高橋氏には令和2年度に講師についてご快諾をいただいておりますので、3年目にして下北地区での講演会が実現いたしました。

ご講演では、ストレスやストレスチェック制度について、さらには不安やストレスに悩まない習慣づくりについて教えていただきました。明るく元気であるためにストレスや不安を溜め込まない習慣を心がけていくことの大切さや教職員への心配り、声のかけ方等についても豊富なご経験を交えながらお話していただきました。「管理職が明るく元気な学校をめざして、愛で溢れる学校をつくりましょう！」この言葉で終えた講演会は、明日への活力をいただきました。大変有意義な時間となりました。

(事務局長 佐々木 敏之)



講演する高橋昭三氏

◆平成5年度支部講演会◆  
 野球指導者・近藤義男氏が講演  
 「やる気」を引き出す環境づくり



昭和57年11月に結成された岩手県支部は今年度、創立40周年を迎えました。令和5年6月3日(土)に開催する支部定期総会後の講演会は講師に千葉市在住の野球指導者・近藤義男氏をお迎えして行います。近藤氏は千葉大学大学院終了後、教員の道を歩み、U15侍ジャパン軟式編成委員長を務めるなど、

ど、野球指導者としても著名な方です。「人前に立つ」人間が取り組まなければならないことはどんなことか、子どもや教職員のやる気を引き出す方法をお話して頂きます。なお、日本ハムからソフトバンクに移籍し、WBC日本代表の近藤健介選手は近藤氏の次男です。

スポット  
その179

岩手県国公立幼稚園・こども園協議会 会長  
 理事 芦 宏氏  
 (一関市立摺沢幼稚園 園長)



登園時、恐竜になりきった園児に玄関先で火を噴かれ、死んだマネをすることから園長先生の一日がスタートします。園長先生は、四年前に園児が就学する大東小学校を定年退職し、本園に着任されました。ある園児は、「お兄ちゃん学校の校長先生がなんでいるの?」と声をかけてきたそうです。園長先生は、担任から散歩や遊びの補助をお願いされると喜んで子どもたちと

一緒に遊んでくださいます。また、給食時には、白衣を着て、給食の配膳を自ら行っています。いつも私たち職員や子どもたちに気軽に声をかけてくださるので、とても頼れる園長先生です。今年度から岩手県国公立幼稚園・こども園協議会会長を務められ、出張も多く、発表会の前日は、全国国公立幼稚園・こども園長会の会議が東京で開催され、日帰りで出席してきました。本園は、園児の減少等一年後には摺沢こども園への移行が決まっていますが、「園児一人ひとりが輝く幼稚園」を目指し、園長先生は、今日も笑顔で元氣いっぱい走り回っています。(副園長 吉家 朋子)

◆終身会員

▼盛岡地区 (35名)

- 小山田秀次・荒川享司・佐々木勉・遠藤耕生・真壁信義・北田光志・加藤良・佐々木満・平井良明・鎌田達也・阿部真一・藤村一夫・宮崎正俊・中村悟史・今野洋明・中村雅彦・佐々木浮子・城内達夫・和田敦子・熊林善憲・小山田誠幸・舞田一穂・小原竜二・松葉覚・坂下孝・鈴木裕樹・内村弘子・高橋治・福土幸雄・久保智克・鈴木博・千葉治・遠藤拓見・中館豊・柏崎りえ

▼岩手地区 (8名)

- 阿部あずさ・小野寺教子・安部哲矢・澤田章弘・鹿崎良宏・榊原世士・菊池千賀子・三浦猛雄

▼紫波地区 (3名)

- 小川祐史・佐藤嘉宏・加藤直樹

▼花巻地区 (8名)

- 柳原典・高橋彰・高橋昌克・中村哲・才藤史紀・菅原一志・太田優子・小原貴人

▼遠野地区 (3名)

- 細川昭子・高橋恵美・小向敏夫

▼北上・和賀地区 (10名)

- 船田浩・大沼英生・藤田知也・中野順一・伊藤清光・梅木康行・高橋正浩・高橋信之・菅原浩樹・八重樫仁

▼胆沢地区 (7名)

- 石川悦也・佐々木江里子・千葉和仁・関向正俊・鈴木雅司・細谷正憲・高橋正勝

▼江刺地区 (2名)

- 千葉栄・千葉尚

▼一関西地区 (9名)

- 佐藤公一・小山祐二・小野寺浩之・佐藤伸哉・時枝直樹・千葉豪・和賀達也・吉田祥・吉川彰彦

▼一関東地区 (6名)

- 及川輝美・佐藤紹榮・鈴木千恵子・藤原正克・伊東秀敏・菅原桂吾

▼気仙地区 (5名)

- 大和田典明・熊谷賢・金野美恵子・小林京子・村上亮

▼釜石地区 (3名)

- 佐々木猛・吉田均・松橋文明

▼宮古地区 (3名)

- 佐藤和男・佐々木優・花輪直之

▼九戸地区 (2名)

- 菊地理・門前雅紀

▼二戸地区 (5名)

- 立花淳・土佐野淳・新毛元昭・平幸・前田隼

▼浅沼清智 (笹間第一小)

- (計110名)

岩手県教育振興基金  
寄附者御芳名

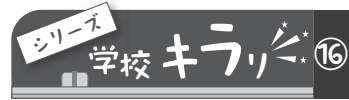
一月末分 (敬称略)

今回は令和4年3月にご退職され、終身会員としてご加入頂いた小・中・高・特別支援校・教育行政の先生方を加入希望地区へご紹介致しました。お一人1万円のご寄附を頂き深く感謝申し上げます。なお、令和4年度の正会員数は1千3百57名、終身会員数は、2千3名で、合計3千4百71名の会員数となっています。



# 生きる力の育成を地域とともに

奥州市立若柳小学校 校長 千葉 眞理子



本校は奥州市の西部に位置し、胆沢扇状地に広がる豊かな水田での稲作を主産業として栄えてきた町にあります。多くの子どもたちは祖父父母と同じ、農作業を行う姿を目にして育っていますが、

田植えや稲刈り等を手伝う子どもはごく少数です。豊かな自然や豊かな勤労体験の機会がありませんが、そこに触れないまま過ごすのはとてももったいないことです。そこで、地域の人や自然と触れ合う活動を通して、育てる苦労や収穫の喜びを味わわせたり、地域の人の温かさに触れさせたりすることが、情緒や社会性など生きる力の土台を育てていくことになると考え、生活科と総合的な学習の時間の内容を見直しました。本稿では、字数が限られていることから生活科の内容について紹介します。

(1)1年生「きれいにさいてね わたしのはな」



地域の指導者とピーマン苗の植え付けをする児童

校庭花壇にひまわりを植えました。ひまわりは休耕田活用の作物として地域で栽培され、子どもたちも目にしていきます。種子を植える前の花壇の整備は、保護者や地域の方といっしょに行いました。グループごとに自己紹介をし、鎌の使い方を教えてもらい、除草作業を行いました。地域の人との交流をねらい、会話をしながら作業を行いました。その後、循環型農業を推進している地域講師と種蒔

きを行いました。子どもたちは、暑い中の除草作業もがんばって行いましたので、大輪の花を咲かせたときには、大変喜んでいました。

(2)2年生「めざせ野さい作り名人」

学級園にピーマンを栽培しました。ピーマンは全国に誇る胆沢の特産物です。地域の若手営農者を講師に植栽を行いました。子どもたちがせっせとお世話をしたおかげで、たくさんの実がなり、収穫の喜びを存分に味わうことができました。全部で千個以上は収穫したと思います。栽培の途中では、学校近くのピーマンハウスの見学も行いました。その後、やはり地域の方を講師にピーマン料理を作りました。子どもたちの好きな味で、簡単にできるピーマンピザは大好評で、全員完食でした。今回の生活科の取組は、学校運営協議会での協議からアイデアや人材の紹介をいただいたものです。地域を知る委員からの情報が教育活動と合致し、一定の成果を挙げることができました。これからも子どもたちの成長のために、地域と共に歩む学校でありたいと思います。

## 山寺の鐘

昨年4月、投手であれば誰しも夢を見る記録、一人の走者も出さず勝利する完全試合が佐々木朗希投手によって達成された。日本プロ野球球界で28年ぶり史上16人目であり、メジャーリーグの140年余りの歴史でもわずか23人だけである▼あと1イニング、あと1人で大記録を逃し、天を仰いだ投手もこれまで何人もいた。佐々木朗希投手の完全試合を知り、思い出す記録がある▼この大記録が13年前の6月、メジャーリーグで達成するところだった。タイガース対インディアンス戦。9回2死27番目の打者の打球を捕球して「塁手はベイスカパーに入った投手に送球。ところが一塁塁審の判定はセーフ。監督は猛烈に抗議したが、判定がくつがえることはなかった。試合後リプレーを見た一塁塁審はアウトだったことを確認。誤審だったことを認め謝罪した。マスコミは「史上最悪の判定」と報じた▼この投手は翌日、主審を務める審判のもとに歩み寄り握手を求めたという。「完全な人間などいない」と審判をかばった。彼の温かな人柄にメジャーリーグのファンは爽快な気分を味わった。間違いを認め、審判、そしてそれを許す選手。こうでありたいものだ。(祥)